



2011年9月期 決算説明資料

2011. 11.18(大阪) 2011. 11.21(東京)



Copyright © IMV CORPORATION 2011 All right reserved

■ 当資料について



○ 用語の説明

- DSS……振動シミュレーションシステム(振動試験装置、複合環境試験装置)
- MES……メジャリングシステム(振動計測装置、振動監視装置、地震監視装置)
- MIG……環境信頼性評価システム(マイグレーションテスター、電気試験装置)
- TSS……テスト&ソリューションサービス(テストラボ事業、ソリューション事業)
- EGS……エンジニアリングサービス(振動試験装置・計測装置の修理・点検・保守)

○ 免責事項

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。投資に関する決定は、ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。

本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保障するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。

■ 決算概要と主要アクション



決算概要

- 売上高・受注高:
振動シミュレーションシステムの国内販売の増加、震災復旧に伴うメジャリングシステムの増加及び受託試験の増加により、受注高は前期比23.5%増の5,617百万円となり、売上高は前期比11.1%増の4,690百万円となりました。
- 経常利益・当期純利益:
前期に縮小していた人材、設備、研究開発等の事業投資を再開した影響等があり、経常利益は前期比13.3%減の351百万円となりました。また、会計基準の変更に伴い資産除去債務を計上した影響等を加え、当期純利益は前期比48.7%減の182百万円となりました。

主要アクション

- 新製品の開発:
 - ✓ 携帯型振動計「カードバイプロNeo」を無線化した「カードバイプロAir」をリリースしました。
 - ✓ 省エネ型振動シミュレーションシステム「エコシェーカー」シリーズのCEマークを取得し、欧州地域へ出荷を開始しました。
- 海外展開拡大:
戦略製品である省エネ型振動シミュレーションシステム「エコシェーカー」及び、多軸振動シミュレーションシステムの拡販を目的とし、欧州各国の現地代理店と販売契約を締結して販売チャネルを強化しました。

今後の展開

- 駐在員派遣など海外展開を一層強化すると共に、引き続き新規事業分野への展開を加速いたします。また、既存事業分野においても新製品の投入等により収益性の向上を図ります。



■ 決算概要(連結)



(単位:百万円)

	11/9期 実績	10/9期 実績	増減額	増減率	11/9期 予想	増減率
受注高	5,617	4,549	+1,068	+23.5%	—	—
売上高	4,690	4,223	+466	+11.1%	4,600	+2.0%
営業利益 (営業利益率)	374 (8.0%)	417 (9.9%)	△43	△10.3%	325 (7.1%)	+15.2%
経常利益 (経常利益率)	351 (7.5%)	405 (9.6%)	△53	△13.3%	300 (6.5%)	+17.3%
当期純利益 (当期純利益率)	182 (3.9%)	356 (8.4%)	△173	△48.7%	155 (3.4%)	+18.0%

	11/9期 実績	10/9期 実績	増減額	増減率	概要
設備投資額	29	28	+0	+2.1%	
減価償却費	203	252	△49	△19.6%	設備投資縮小の影響。
研究開発費	214	159	+54	+34.4%	新規事業等の投資による増加
従業員数(人)※	195	194	1	+0.5%	

※△は損失を表します。従業員数には、期中平均臨時従業員数を含みます。

売上高は前期比466百万円増収の4,690百万円となりました。前期に縮小していた研究開発等の事業投資を再開した影響等により、営業利益は前期比43百万円減益の374百万円、経常利益は前期比53百万円減益の351百万円となりました。当期純利益は前期比173百万円減益の182百万円となりました。

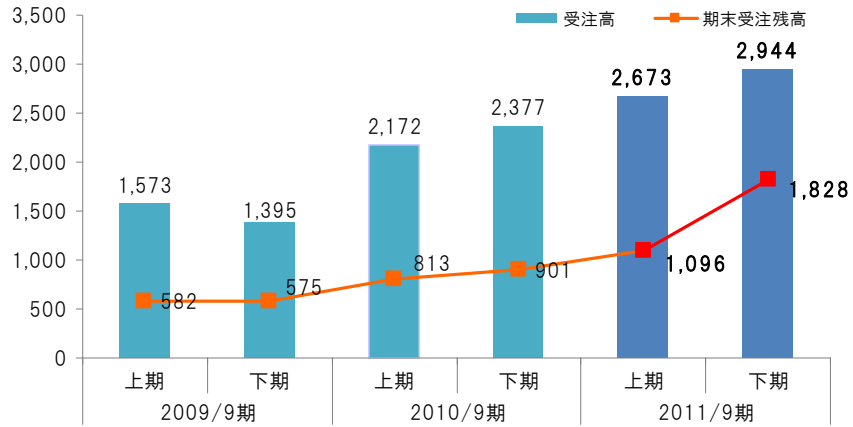


■ 受注の状況



(受注高: 百万円)

(期末受注残高: 百万円)



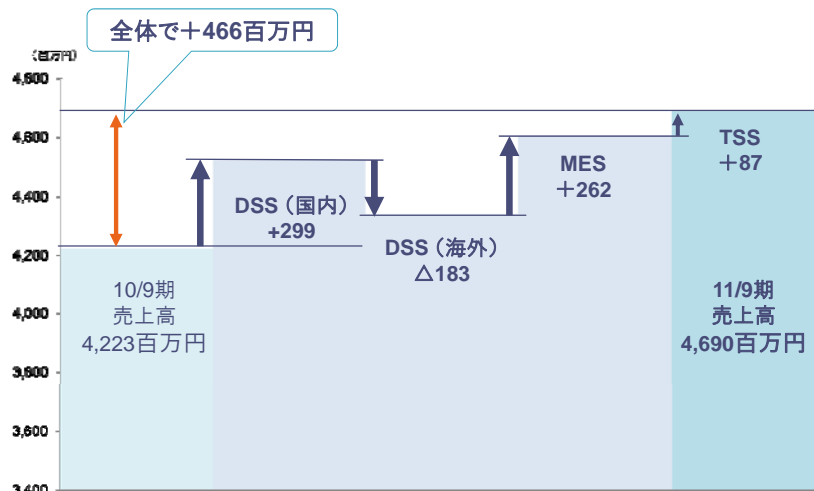
2011/9期に入り、自動車関連業界を中心に受注は回復基調にあります。上期末から下期にかけては、DSSの大型案件の受注も増加し、年間の受注高につきましては5,617百万円となり、前期と比べ1,068百万円の増加(前期比23.5%増)となりました。



5

Copyright © IMV CORPORATION 2011 All right reserved

■ 売上高増加要因(連結)



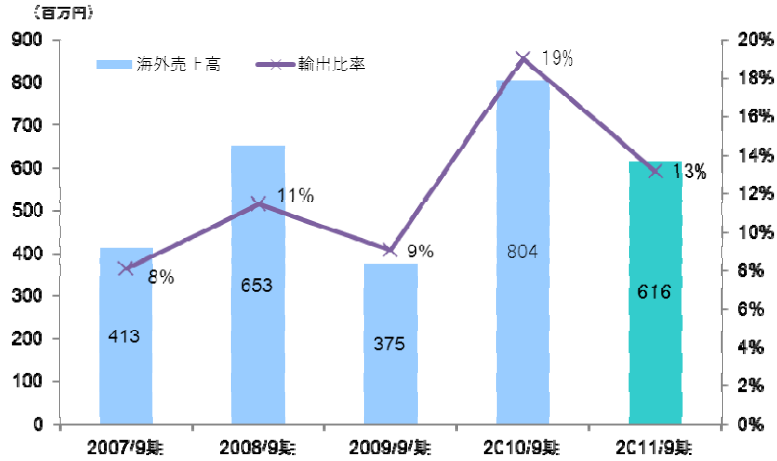
DSSの国内向け販売につきましては、自動車関連業界を中心に受注が回復し、前期にリリースした「エコシェーカー」も好調であり増収となりました。また、MESIにおける震災復旧需要及び、テストラボ事業の伸長などにより、全体としては466百万円の増収となりました。



6

Copyright © IMV CORPORATION 2011 All right reserved

■ 輸出比率の増減

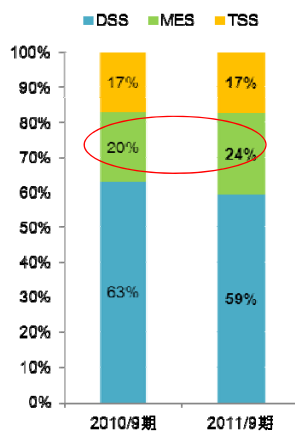


韓国及びロシアにおいて、前々期の大幅減(世界経済の低迷による設備投資凍結)、前期の大幅増(設備投資の急激な再開)から脱し、定常状態になったことにより前期に比べ売上は減少いたしました。

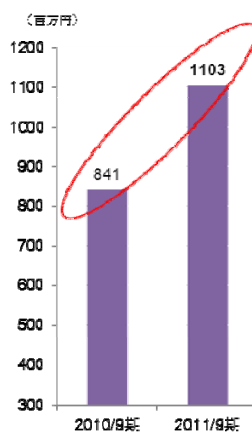
■ 品目別ポートフォリオ



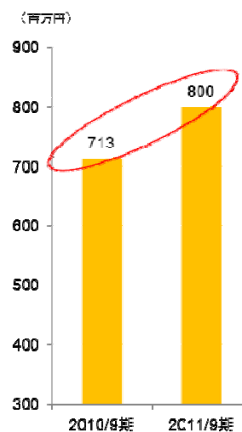
○ 品目別売上構成比



○ MES



○ テストラボ



DSSの分野においてエコシェーカー等が好調でありましたが、震災復旧需要による売上増加の影響により、MESの売上構成比が4ポイント増加しております。テストラボ事業においても好調を持続し増収となりました。

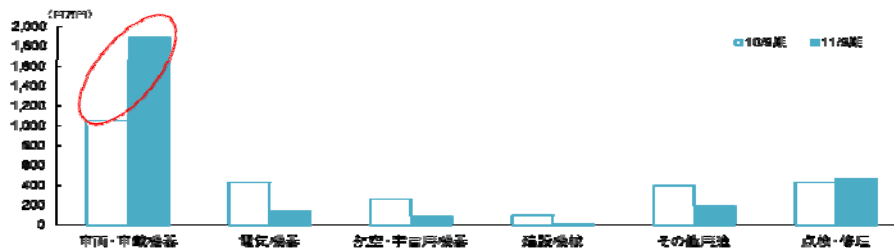
■ 振動シミュレーションシステム



(単位:百万円)

	11/9期	10/9期	増減額	増減率
車両・車載機器向け	1,888	1,052	+836	+79.4%
電気機器向け	147	432	△ 285	△ 65.8%
航空・宇宙用機器向け	81	262	△ 181	△ 68.8%
建設機械向け	13	95	△ 81	△ 85.7%
その他用途向け	183	395	△ 213	△ 53.7%
点検・修理	467	427	+40	+9.5%
合計	2,782	2,666	+117	+4.4%

- 自動車関連業界の需要が回復し、HV・EVに関連した車載用のモーターや電池等の試験用途も増加したことにより、前期比117百万円増収の2,782百万円となりました。
- 省エネ型振動シミュレーションシステム「エコシェーカー」シリーズにおいて、水冷大型システムへのラインナップ拡張により、本シリーズの売上が倍増しました。
- エコシェーカーにおいて、欧州安全規格であるCEマークを取得し、欧州地域への出荷を開始しました。



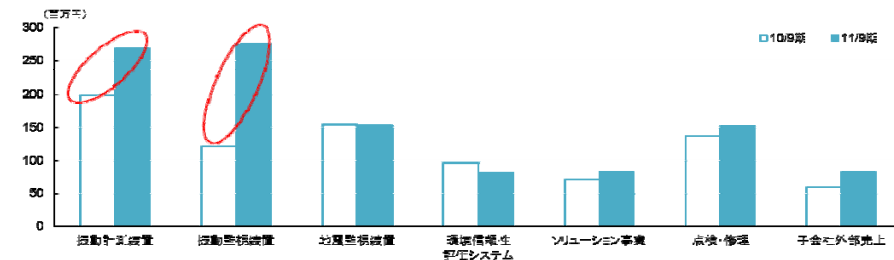
■ メジャリングシステム



(単位:百万円)

	11/9期	10/9期	増減額	増減率
振動計測装置	269	199	+70	+35.4%
振動監視装置	276	121	+155	+128%
地震監視装置	154	155	△ 1	△ 0.7%
環境信頼性評価システム	82	96	△ 13	△ 13.6%
ソリューション事業	83	71	+12	+17.9%
点検・修理	152	137	+15	+11.0%
子会社外部売上	83	60	+23	+38.1%
合計	1,103	841	+262	+31.2%

- 火力発電所や各種プラント等の震災復旧関連需要や、Bently Nevada製品(提携先製品)の販売及び、連結子会社であるデータテクノの売上が寄与し、売上高は前期比262百万円増収の1,103百万円となりました。
- 携帯型振動計「カードバイプロNeo」を、無線化して使い勝手向上を図った「カードバイプロAir」をリリースしました。



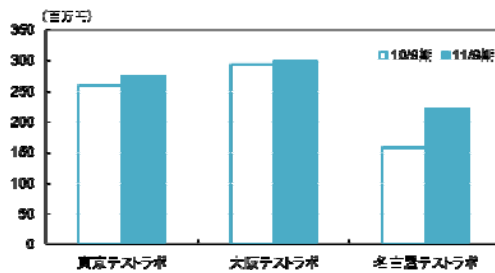
■ テスト&ソリューションサービス



(単位:百万円)

	11/9期	10/9期	増減額	増減率
東京テストラボ	275	260	+14	+5.7%
大阪テストラボ	301	293	+7	+2.5%
名古屋テストラボ	223	159	+64	+40.7%
子会社外部売上	3	2	0	+29.2%
合計	804	716	+87	+12.2%

- 電気自動車の車載機器や、鉄道車両機器の受託試験が好調で、東京、名古屋、大阪の全拠点で前期実績を上回る結果となり、売上高は前期比87百万円増収の804百万円となりました。



- 鉄道車両機器用試験装置



今後の取り組み



■ 業績の見通し(連結)



(単位:百万円)

	12/9期 予想	11/9期 実績	増減額	増減率	概要
売上高	5,440	4,690	+749	+16.0%	大型案件増加、海外売上増加を想定
営業利益 (営業利益率)	420 (7.7%)	374 (8.0%)	+45	+12.2%	研究開発や設備投資等の事業投資を積極的に強化することを想定
経常利益 (経常利益率)	405 (7.4%)	351 (7.5%)	+53	+15.1%	
当期純利益 (当期利益率)	230 (4.2%)	182 (3.9%)	+47	+25.8%	従業員採用は最小限に抑えつつ、固定費削減の緩和を想定
設備投資	388	29	+359	+1,234%	テストラボ大型設備等の積極投資
減価償却費	251	203	+48	+23.9%	設備投資増加に伴う増加
研究開発費	237	214	+23	+10.8%	エコシエーカー普及版開発、新規事業分野での研究開発増加を想定
従業員数(人)※	200	195	+5	—	新卒及び中途採用を再開
1株当たり当期純利益(円)	14.07	11.19	+2.88	+25.8%	—
1株当たり配当金(円)※	4.00	4.00	0	—	—

※従業員数には、期中平均臨時従業員数を含まず。

※11/9期の配当金につきましては、2011年12月開催予定の定時株主総会において上記配当金を附議する予定です。

国内向けの大型案件の売上増加及び、海外向けの売上増加を見込み、売上高は5,440百万円と想定しております。利益面では、研究開発や設備投資等の事業投資を積極的に強化する予定であるため、営業利益は420百万円、経常利益は405百万円及び、当期純利益は230百万円と予想しております。
なお、配当につきましては4円を予定しております。

■ 成長の為の方策



全般

- 国内市場と海外市場への同時進行によるセールス・サービスネットワークの拡大

DSS

- エコ化の為のアンブ交換を推進

MES

- フルモデルチェンジと無線型振動計の拡販

TSS

- 設備増強による機会損失解消

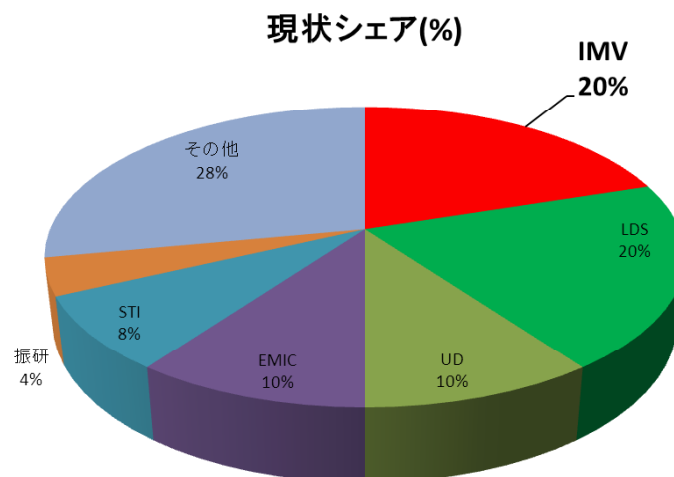
新規事業

- 二次電池/太陽光発電/風力発電の分野で信頼性試験装置を開発

■ ネットワーク拡大の現状



■ アンプ交換により世界シェアを20%から25%へ



■ 無線型振動計(カードバイブロAir)の投入



カードバイブロAir



2011年度TPM優秀商品賞-開発賞 受賞



次世代カードバイブロAirの開発



開発コンセプト

- ・センサ部分のコンパクト化
- ・連続運転(8H)

用途拡大に伴う更なる拡販を目指す

■ テストラボの設備増強



大阪テストラボ



東京テストラボ

増設

- 耐震振動試験装置
- 200kN 大型振動試験装置

大型の試験対象品の耐震、振動試験の需要増加に対応



名古屋テストラボ

増設

- 水平・垂直複合振動試験装置

HV・EV化に伴うモーター・インバーター・バッテリー等の水平複合試験の需要増加に対応



※)海外でのテストラボ開設を検討中

■ 新規事業分野の新製品(年商10億円)



年間売上 10億円規模の新規事業を確立

Li-ion 電池分野

- ・計測器：寿命予測、部分放電試験機
- ・試験機：防爆、耐ガス試験システム



部分放電試験機

太陽光発電分野

- ・劣化診断計測器



風力発電分野

- ・設備診断システム



中期的な戦略について



我々のターゲット

No.1企業から、世界のクリエイティブ企業へ
Creative

我々のチャレンジ

優秀な外国人の
採用と登用
現地の感性を製品開発
とマーケティングに

Human

・スピード感覚
・仕事と責任
・JobとTarget
を明確に

Speed

とにかく英語
教育と公用語

Global

ありがとうございました

代表取締役会長

小嶋 成夫

代表取締役社長

岡本 二郎

執行役員 経営企画本部長

白星 政和

■ お問い合わせ先

IR窓口：経営企画本部・IR担当 中上

TEL：06-6478-2565

FAX：06-6478-2567

E-MAIL：imvir@imv.co.jp

<http://www.imv.co.jp>

○免責事項

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。投資に関する決定は、ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。

本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保障するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをあらかじめご承知おきください。

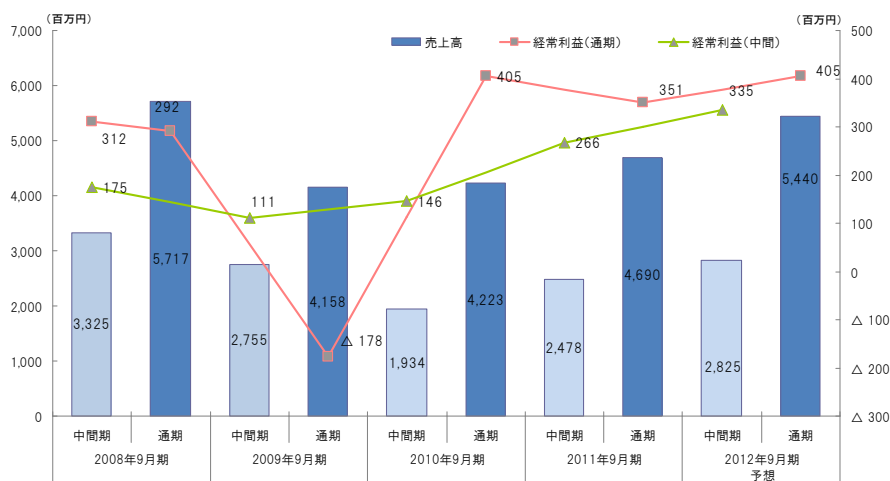


(ご参考資料)



Copyright © IMV CORPORATION 2011 All right reserved

業績推移(連結)



※ △は経常損失を表します。

■ 貸借対照表の概要(連結)



(単位:百万円)

	11/9期末	10/9期末	増減額		11/9期末	10/9期末	増減額
流動資産	3,735	3,863	△127	流動負債	3,043	3,527	△483
現金預金	858	1,177	△318	仕入債務	869	841	+27
売上債権	1,670	1,802	△131	短期有利子負債	1,622	2,272	△649
棚卸資産	1,039	745	+294	其他流動負債	551	412	+138
其他流動資産	166	138	+28	固定負債	1,071	1,302	△230
固定資産	2,781	3,215	△434	長期有利子負債	781	1,043	△261
有形固定資産	2,641	2,965	△324	其他固定負債	289	258	+30
無形固定資産	31	50	△19	負債合計	4,114	4,829	△714
投資其他資産	108	199	△91	純資産合計	2,401	2,249	+152
資産合計	6,516	7,078	△562	負債・純資産合計	6,516	7,078	△562

資産の部 : 期末の生産増加に伴い棚卸資産は増加しましたが、借入金の返済等による現金の減少の影響により、流動資産が127百万円減少しました。また、保有不動産の売却等により固定資産が434百万円減少しました。

負債の部 : 借入金の返済等により負債合計は483百万円減少しました。

純資産の部 : 当期純利益の計上による利益剰余金の増加により純資産合計は152百万円増加しました。

■ キャッシュフロー計算書の概要(連結)



(単位:百万円)

		11/9期	10/9期	増減額
①	営業活動によるキャッシュ・フロー	378	814	△436
②	投資活動によるキャッシュ・フロー	138	199	△61
①+②	フリーキャッシュフロー	516	1,014	△497
③	財務活動によるキャッシュ・フロー	△945	△559	△385
④	現金及び現金等価物に係る換算差額	△0	0	△0
⑤	現金及び現金同等物の増減額	△429	454	△884
⑥	現金及び現金同等物期首残高	1,100	645	+454
⑦	現金及び現金同等物四半期末残高	670	1,100	△429

営業CF : 税金等調整前当期純利益327百万円、減価償却費203百万円及び売上債権の減少131百万円等の増加要因が、棚卸資産の増加294百万円等の減少要因を上回ったことにより、378百万円の増加となりました。

投資CF : 有形固定資産の売却による収入189百万円等による増加要因が、有形固定資産の取得による支出27百万円等による減少要因を上回ったことにより、138百万円の増加となりました。

財務CF : 短期借入金の純減少額466百万円及び長期借入金の返済による支出1,344百万円等による減少要因が、長期借入れによる収入950百万円等による増加要因を上回ったことにより、945百万円の減少となりました。

■ 会社概要(2011年9月期連結)



社 名 : IMV株式会社 (英文社名:IMV CORPORATION)
証 券 コード : 7760 (大証JASDAQ(スタンダード)／精密機器)
設 立 : 1957年4月17日
事 業 概 要 : 振動シミュレーションシステム及びメジャリングシステムの製造・販売
及びテスト&ソリューションサービスの提供
代 表 者 : 代表取締役会長 小嶋 成夫
代表取締役社長 岡本 二郎
売 上 高 : 4,690百万円
経 常 利 益 : 351百万円
資 本 金 : 464百万円
従 業 員 数 : 195人 (34名の期中平均臨時従業員含む)
本 社 所 在 地 : 大阪市西淀川区竹島2-6-10
(本社/開発センター/生産本部/東京営業所/大阪営業所/名古屋営業所/
東京テストラボ/大阪テストラボ/名古屋テストラボ)

■ 会社沿革



1957年 4月	株式会社国際機械振動研究所を設立
1974年 10月	会社更生法を大阪地裁へ申請 小嶋成夫(現会長)が更生管財人として自力再建を開始
1985年 7月	残3回の弁済計画を繰り上げ、会社更生手続きを終結
1994年 9月	日東精機㈱を100%子会社化
1998年 4月	国内初のテストラボ専用施設を完成(東京工場敷地内)
2005年 5月	本社・大阪工場を大阪市西淀川区に移転・統合
2005年 6月	大阪テストラボ開設
2005年 7月	ジャスダックに上場
2007年 4月	会社設立50周年
2007年 9月	名古屋テストラボ開設
2009年 3月	大阪テストラボに鉄道車両機器向け新試験棟開設
2009年 12月	㈱データ・テクノを100%子会社化
2010年 12月	東京営業所を港区浜松町に移転
2011年 10月	IMV European Technical Centre をUKに開設

SECURE THE FUTURE

～IMVが見守る未来～

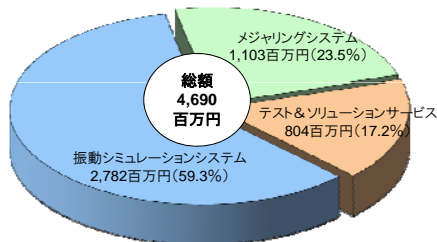
FIRST Choice for our Partners

- Future** 安全を見つめて未来の社会に貢献します
- Integrity** 誠実で開かれたパートナーシップを大切にします
- Reliability** 製品とサービス、すべてに信頼を作り込みます
- Strength** 振動技術の世界リーダーとして経営基盤を強化します
- Technology** 顧客ニーズに俊敏に応える技術を開発します

■ 国内トップシェアを実現する3つの事業

振動を**再現**する
振動シミュレーションシステム

振動を**計測**する
メジャリングシステム



(2011年9月期 連結売上高)

振動問題を**解決**する
テスト&ソリューションサービス

■ 振動シミュレーションシステムの用途



～あらゆるシーンで使用されています～

